

標 題	<b>「産直 GAP」の推進を役員研修会で意見交換 ～奥出雲産直振興推進協議会 研修会の開催～</b>
-----	---

(ダイジェスト)

奥出雲産直振興推進協議会（会長 木村晴貞、雲南地域の22（雲南市10、奥出雲町6、飯南町3、都商店舗3）の産直組織（直売所）事務局：JA雲南、会員数2,971名）では、8月28日、JAしまね雲南地区本部において、安全安心につながる産直GAPの推進のための研修会を開催しました。この研修会を契機に今後各出荷協議会で効果的な取り組みが検討され実施に向かうこととなります。

奥出雲産直振興推進協議会は、雲南地域の22（雲南市10、奥出雲町6、飯南町3、都商店舗3）の産直組織（直売所）で構成され、生産、販売、PR、研修活動に取り組んでいます。

今年度は、多様化する消費者ニーズに対応するため、「安全・安心」で「生産者の顔の見える」取り組みをすすめることとし、生産履歴・トレーサビリティを徹底し、産直GAPや新たな情報提供の仕組みづくりに取り組むことが総会で決まっています。

研修会の内容は、まず、雲南事務所農業普及部から「GAPとは？」「GAPで取り組む項目は？」について説明しました。

その後、県内で先駆的な取り組みをしている 産直市みずほ企業組合 産直市みずほ 竹内覚店長から 生産履歴の全品目提出の取り組み推進の状況などを聞きました。高齢化の進む出荷者の理解と継続的な記帳による出荷者減の懸念やチェック体制など課題を克服した手法は大いに参考になりました。意見交換では参加者それぞれが直売所での改善点を明確にし、具体的な推進方策を検討しました。

JAしまね雲南地区本部からは[JAしまね版産直統一システムの運用]の検討状況の説明もありました。

終了後のアンケートでは「参加者全員が興味のある内容で、質疑は活発で、参考になることが多かった」「出荷会員全員の理解を得るのは大変かと思うが関係機関の支援を受けながら進めていきたい」などの意見がありました。

雲南事務所農業普及部では、引き続き関係機関と連携し各出荷協議会の取り組みを支援して行きます。

なお、この研修会開催は「中山間農業ルネッサンス推進事業」を活用しました。

竹内店長からの事例報告

